

## 南信地区

11月19日の南信大会は、新型コロナウイルス感染予防のため、会場校を中心に、上伊那教育会学校図書館教育委員会・上伊那学校図書館司書の会役員のみによる限定公開という形で行いました。

### 「南信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

上伊那支部代表 南箕輪村立南箕輪小学校・南箕輪中学校

#### 1 研究テーマ 「生きる力を育む学校図書館教育のあり方」

#### 2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学年・授業者	教科・単元名	指導者
南箕輪 小学校	5年3組 熊谷 はる菜 教諭	総合的な学習の時間 「絵本プロジェクト」	長野県総合教育センター 上條 大樹 専門主事
南箕輪 中学校	3年4組 白鳥 志津子 教諭	総合的な学習の時間 「地域に貢献～図書館 ver～」	南信教育事務所 鈴木 伸幸 指導主事

#### 3 参加者人数 25名

#### 4 まとめ・研究会で話題になったこと

##### 【小学校】

学級で育てた野菜を販売し、そのお金で園児たちのための絵本を作って交流することを総合的な学習の時間の活動に据えた子どもたち。子どもたちは、どうすれば園児たちが喜んでくれる絵本を制作することができるのか、園長先生方にアドバイスをいただきつつ活動を進めることを決めだし、本授業に臨んだ。子どもたちが必要感をもちながら園長先生方にアドバイスを求め、その内容を自分たちの制作に活かそうと話し合う姿は、まさに「主体的な学び」が具現化されたものであったと感じる。

・園児たちを喜ばせたいという相手意識が、子どもたちの意欲を引き出していたと感じるが、そこに「絵本」という魅力的な材が加わることで、大変充実した活動になった。図書館にある様々な資料を活用しながら制作に臨むことで「本だからこその良さ」「図書館だからこその良さ」を感じながら追求することができたと思われる。



##### 【中学校】

愛着のある図書館を、多くの人に利用してもらいたいと思い、自分たちが貢献できることを考え活動する中で、ICT（ジャムボード）を活用しながら活動報告を発表し、意見やアドバイスを集めた。ICTを活用し、視覚的に意見を集約するだけでなく、直接質問している姿や話し合っている姿もあり、両方のかかわりがあり、探究的な学びになっていた。常に問い続けて課題を解決している姿が素晴らしく、将来、地域の活性化を考えられる生徒を育てる授業だった。

